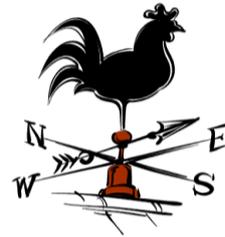


鉄の道クラブ NEWS

Vol. 1, No. 3 / 2012.09.30

—ローカル鉄道応援酒「鉄の道」ニュースレター 第3号—

発行/一般社団法人 洗楓座
所在地/千葉市中央区今井 2-12-1-303
Tel&Fax /043-261-8105
Email/kofuza@gmail.com
http://www.tetsunomichi.net



北東西南 (NEWS)
をつないで、
地方復権!
日本再生!

TOPICS

地域活性学会 第4回研究大会で「鉄の道」 について、洗楓座が研究発表しました。

2012年7月28日/高知工科大学

◇ 地域活性学会とは ◇

地域活性学会は、2008年(平成20年)11月に、次のような活動を掲げて設立された学会です。

- 1) 地域活性化を担う専門的な人材の育成(教育)
- 2) 地域活性化の理論と方法の学際的な探究(研究)
- 3) 地域活性化に関する研究成果の地域への還元(地域貢献・政策提言)
- 4) 地域活性化に関する国内外の研究ネットワークの構築(国内連携・国際交流)

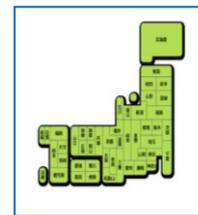
地域活性学会では、毎年、研究大会と称する地域活性化活動についての発表会を実施しています。今年は第4回目の大会でありましたが、ローカル鉄道応援酒「鉄の道」についても、この大会の「自治体・団体による事例発表」のセッションで、経緯と現状、そして今後について報告されました。

◇ 地域活性学会と「鉄の道」誕生の経緯 ◇

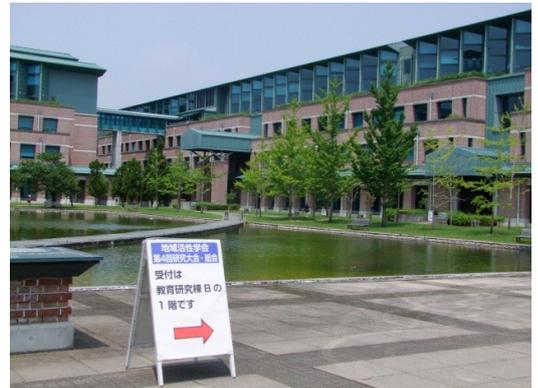
洗楓座を主宰し千葉大学の教員でもある佐藤建吉は、地域活性学会の設立の動機付けの一つとなった全国の大学の10校で当初開講した「地域再生システム論」(後に「地域活性化システム論」と改称)を、千葉大学の教養科目である普遍科目で、他の20校とともに開講しました。その講義名は、2008年度は、「地域再生システム論」で、千葉県内のいすみ鉄道と小湊鉄道の両鉄道を房総横断鉄道として取り上げ、その沿線における地域再生案を学生自身が提案できるように、講義では多彩な講師を迎え、講義として情報提供されました。

講師には、千葉県庁・地元市町・内閣府・地元新聞社・いすみ鉄道・小湊鉄道・銚子電鉄・観光専門家・ポイントカード会社・鉄道研究者・JR貨物・博物館・モノづくりアーティストを迎え、学生に多面的な情報を与えました。これに応え、約50名の学生が独自の活性化提案を行いました。その提案内容は、いすみ鉄道沿線の「いすみ市郷土博物館」で2週間展示し、地元の千葉日報で掲載され、市民に伝えられました。読売新聞では、学生がローカル鉄道による地域活性化への取り組むことがユニークであるとし、講義を通じて学生のbefore&afterを取材し、全国版のシリーズ「大学を歩く」(千葉大)として、2009年1月20日(火)20面に掲載され、話題になりました。

ローカル鉄道応援酒「鉄の道」は、この講義と同時進行的に実施された国土交通省の「新たな公」によるコミュニティ創成支援モデル事業として、地域資源の活用を進める組織である洗楓座(現在は一般社団法人)により提案され、いすみ鉄道沿線の木戸泉酒造から『鉄の道』として商品化されました。



高知県



会場の高知工科大学

千葉大学講義案内・受講生募集

地域再生システム論 (ローカル鉄道による地域再生)

土曜2・3・4時限×5週実施 千葉大学工学部15号棟110教室

「地域再生システム論」は、全国の22の大学が同じ講義名で行う内閣府との連携科目で、千葉大学では「ローカル鉄道による地域再生」を主題にしました。路線を橋断する小湊鉄道といすみ鉄道、特にいすみ鉄道の存続可能性に向けての方策を、千葉大学の学生が地域の方々とともに考える機会を、この講義は提供します。内閣府や自治体の職員、新聞記者、鉄道歴史家、観光専門家、鉄道学者、地元歴史家、工業デザイナー等に講師や実習指導をお願いしました。ローカル鉄道が地域を元気にする役割をこの講義を通して理解するために、多くの学生や市民の方々の参加をお待ちしています。

① 10月11日(土) 10:30~12:00, 12:50~16:00 講義講師 (千葉大学 佐藤建吉) 発表メッセージ (千葉県 農林畜産課 一) 辺野川府県分 (千葉県庁 農林畜産課 市原市 磯山 肇) 熊の鳴きと暮らし (内閣府 本野啓史)
② 10月25日 10:30~12:00, 12:50~16:00 沿線地質内視鏡 (千葉大学 佐藤建吉) 鉄道講習 (いすみ鉄道 吉田 幸) 銚子鉄道の取り組み (銚子電鉄 青島 隆夫) エコポイントカード (千葉県庁 青川 潤)
③ 11月22日 10:30~12:00, 12:50~16:00 鉄道と観光 (加藤 光 野澤 正夫) 鉄道等賞コンクール (小湊鉄道 中村 直樹) 鉄道は元気 (東京大学 佐藤 誠一 一) モーダルシフト (JR貨物 橋田 仁)
④ 12月13日 10:30~12:00, 12:50~16:00 歴史と人物 (読売新聞 豊田 真智) 千葉県のデザイン (日本がこみューニティ協会 山田 肇) ツルギの質 (千葉大学 佐藤建吉ほか)
⑤ 1月24日 10:30~12:00, 12:50~16:00 鉄道・地域再生講座 その1 (受講生) 鉄道・地域再生講座 その2 (受講生) 鉄道に対する誇り、まごめ (受講生ほか)

鉄道と地域再生に関心のある市民の方も受講できます。(受講無料)

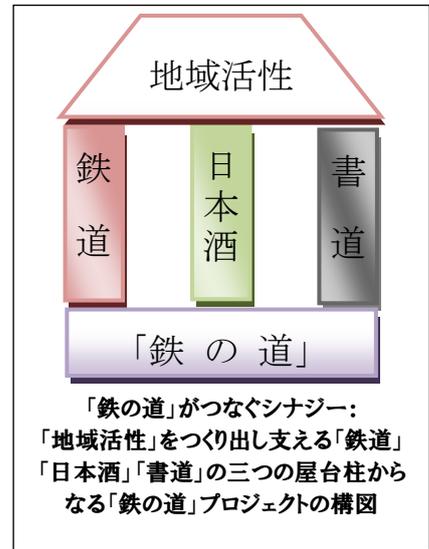
担当・問合せ 千葉大学工学部 佐藤建吉 ksato@tu.chiba-u.ac.jp
http://www.eureka.tu.chiba-u.ac.jp/saisei/

2008年度の講義案内ポスター

◇ 報告の内容 ◇

高知で開催された地域活性学会の研究大会では、上述の経緯と現状、そして今後の展望について報告されました。ローカル鉄道応援酒「鉄の道」の概念は、次のようなコンセプトに広がっています。

- ① ローカル鉄道は定時制があり、通学生・通勤者、若齢・高齢者、弱者等の暮らしを支える生命線で、観光資源である。
- ② 地酒（郷酒）は、水と米・麴、そして人と技が作り上げてきた地域資源の商材で伝統文化財である。
- ③ 大都市集中・少子高齢化・長期経済低迷などで経営の厳しいローカル鉄道会社と地方酒蔵がコラボレートとして、共通銘柄の『鉄の道』として、全国ネットワークで、地方の特質、自慢と誇りをPRして、地域活性化、地域再生を進めるためにローカルブランドとする。
- ④ ラベルにも物語を入れることにし、『鉄の道』の揮毫は沿線の高校や大学の書道部に任せて頂き、若者が地元を支援するというムーブメントと、愛着の輪を広げる。
- ⑤ こうして、『鉄の道』を、プライベート&ナショナルブランドに仕立てる。

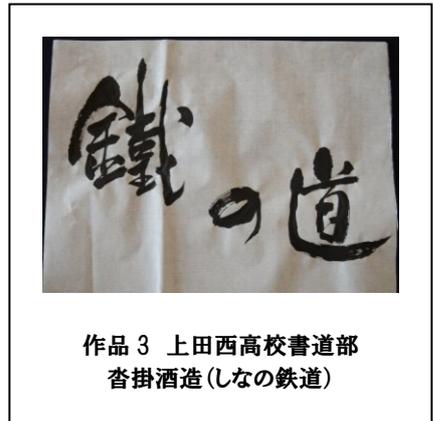
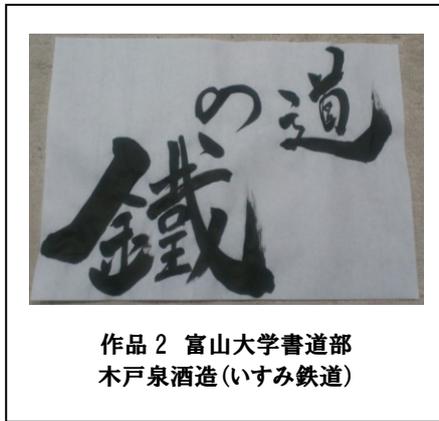


以上は、右の図のように「鉄道」「日本酒」「書道」の三つの屋台柱で、「地域活性」の屋根を支えるという構図になります。

「鉄の道」プロジェクトは、以上のように、内閣府がいまも進めている全国の大学が開講している「地域活性化システム論」（当初は、「地域再生システム論」と呼んでいた）と国土交通省の「新たな公」というモデル事業として始まりましたが、ローカル鉄道を基軸とした地域活性化の主旨に同意して頂いた酒造会社の協力で、文字通りモデル的な意味づけ、全国に広がりつつあります。高知での講演では、以上を報告し今後の展望述べ、さらにご協力をお願いしたいと閉じさせて頂きました。

「鉄の道」ラベルの題字

上述した概念は、その後、着実に準備が進行し、次のように「ローカル鉄道応援酒／鉄の道」は、商品化が行われます。いすみ鉄道沿線の木戸泉酒造の『鉄の道』は地元の大多喜高校書道部OBの男子大学生（作品 1）に、富山地方鉄道沿線の銀盤酒造の『鉄の道』は地元の富山大学書道部の男子大学生（作品 2）に、しなの鉄道沿線の杓掛酒造の『鉄の道』は地元の上田西高校書道部の女子高校生（作品 3）に、さらに秩父鉄道沿線では武甲酒造と矢尾本店の『鉄の道』は地元の秩父農工科学高校書道部の二人の女子高校生（作品 4,5）に、得意の筆遣いで揮毫して頂きました。その際、「鐵」「の」「道」の文字配列は、それぞれの鉄道路線の流れに合わせて、書いていただくようお願いしました（秩父鉄道を除く）。作品を、下の写真に示します。





三陸鉄道(愛称・さんてつ)は、2011年3月11日の地震と津波により、壊滅的な被害を受けました。三陸鉄道の当時の様子とその復旧への取り組みは、劇画コミック本『さんてつ—日本鉄道旅行地図帳 三陸鉄道 大震災の記録録—』として、吉本浩二氏により

新潮社から出版されています(580円、ISBN: 978-4-10-771652-1)。

右図のように三陸鉄道は、北リアス線と南リアス線の二路線がありますが、震災の被害から住民の足を確保するという望月正彦社長の決断と、自衛隊などの復旧活動で、北リアス線は3月20日には宮古~田老区間が開通することができました。その後、2012年4月1日は、宮古~小本、田野畑~久慈の両区間が開通しています。南リアス線は、2013年4月1日に開通の予定です。

1896年(明治29年)に三陸鉄道の創立申請書が当時の逓信大臣に提出されましたが、実際に開業したのは1970年(昭和50年)に盛~綾里区間が国鉄盛線として、1972年(昭和47年)に宮古~田老区間が国鉄宮古線としてでした。その後、1975年(昭和50年)に久慈~譜代区間が国鉄久慈線として開業するなど、部分開通として行われてきました。



2012年4月1日の北リアス線開業式の当日の三鉄車両



その後、1975年(昭和50年)に久慈~譜代区間が国鉄久慈線として開業するなど、部分開通として行われてきました。現在の南リアス線、北リアス線が全線開通したのは、国鉄から分離し、第三セクターとなって1984年(昭和59年)のことでした。



2009年(平成21年)には、開業25周年記念が行われたのですが、その2年後に大震災が発生してしまいました。こうして長い歴史を得て開通、開業した三陸鉄道が、来年には再び全線開通となることを、沿線住民とともに期待するところです。

夕刊フジに「鐵の道」が掲載される

「鐵の道」がマスメディアに取り上げられました。夕刊フジの「おいしいふるさとプレゼント便」(木曜日発行)に、NPO ふるさと往来クラブの提供として企画されました。多くの方々に、「鉄の道」を知って戴く機会になりました。

【2012年6月29日金曜日(第13049号)】

【2012年7月6日金曜日(第13056号)】

地酒「いすみ鉄道鐵の道」5人

おいしいふるさとプレゼント便

純米酒
TETSU NO MICHU
水戸炭田酒造株式会社
千葉県いすみ市大原742-1

おいしいふるさとプレゼント便

地域を元気にする「鐵の道プロジェクト」を存じか。ローカル鉄道と沿線の酒蔵がコラボし、地酒銘柄「鐵の道」を造り、鉄道ファン、地酒ファンらに訪ねてもらおう、飲んでもらうことい

「鉄の道」は、ローカル鉄道を沿線の酒蔵が応援する日本酒の全国共通銘柄だ。ご存知のよう

に、三陸鉄道は昨年3月11日の東日本大震災の地震と津波によって損壊した。そこで、地元、久慈市の酒蔵である福来が、三陸鉄道北リアス線の復興を願い、特別純米酒「鐵の道」で応援している。売上金の一部は社団法人「洗風座(こう)

「プレゼント提供」福来、〒028-8111

【応募要項】はがきに希望の商品名と〒、住所、氏名、年齢、☎を記載の上、〒101-0005 4東京都千代田区神田錦町1-14の4、NPO法人ふるさと往来クラブ一タ刊フジ おいしいふるさとプレゼント便係まで、奮って応募ください。7月4日必着。

w.kofuzai.jp)まで。

【プレゼント提供】木戸泉酒造株式会社、〒298-0004 千葉県いすみ市大原7635の1、☎0470-620013、FAX 0470-620000。http://kiotoizumi.jp.com/

「特別純米 鐵の道」5人

おいしいふるさとプレゼント便

特別純米
鐵の道

おいしいふるさとプレゼント便

「鐵の道」は、ローカル鉄道を沿線の酒蔵が応援する日本酒の全国共通銘柄だ。ご存知のよう

に、三陸鉄道は昨年3月11日の東日本大震災の地震と津波によって損壊した。そこで、地元、久慈市の酒蔵である福来が、三陸鉄道北リアス線の復興を願い、特別純米酒「鐵の道」で応援している。売上金の一部は社団法人「洗風座(こう)

「プレゼント提供」福来、〒028-8111

【応募要項】はがきに希望の商品名と〒、住所、氏名、年齢、☎を記載の上、〒101-0005 4東京都千代田区神田錦町1-14の4、NPO法人ふるさと往来クラブ一タ刊フジ おいしいふるさとプレゼント便係まで、奮って応募ください。11日必着。

岩手県久慈市宇部町5の31、☎0194-562221、FAX 0194-562222。http://www3.alpha-net.ne.jp/users/fukurai/

井坂酒造場「純米 鐵の道」(720ミリ) 3人

おいしいふるさとプレゼント便

地元ローカル鉄道を支援する地酒の共通銘柄「鐵の道」。大阪第1号が井坂酒造場(岸和田市)の醸す「純米 鐵の道」。大阪泉州の米と名水を100%使用したこだわりの「大阪もん」とさわやかな飲み口、独特のコクが特徴。ラベルの題字は、テレビの人気時代劇として一世を風靡した「必殺シリーズ」のタイトルロゴで知られる泉佐野在住の書道家、糸見深南氏によるもの。レー

「おいしいふるさとプレゼント便について」毎週木曜日のプレゼントコーナーを担当するNPO法人ふるさと往來クラブは、内閣府認証のNPO法人です。地域経済の活性化を目指し、ふるさと産品の販促とテストマーケティングを展開しています。詳しく知りたい人は<http://www.nipo.jp/>、<http://www.nipo.or.jp/>、<http://www.nipo.jp/turusaio/p/>をご覧ください。また、応募いただいた方にDMを送付する場合があります。ご了承ください。

ふるさと往來クラブから、井坂酒造場の「純米 鐵の道」(720ミリ)を3人に。

【プレゼント提供】NPO法人ふるさと往來クラブ、〒101-0005 東京都千代田区神田錦町1-14の4、☎03・3518・8841、FAX 03・3518・8884

特別講演会
ブルネルとシェイクスピアの「驚きの島々」
 —ロンドンオリンピックの開会式での演出を読み解く—

◇日時:2012年10月26日(金)18:30~20:30
 ◇会場:東京、千代田区立日比谷図書文化館 大ホール
 ◇主催:日本機械学会
 ◇後援:日英協会、英国大使館、千葉大学
 ◇参加費:1500円、学生500円

ロンドンオリンピックの開会式で、19世紀のイギリスの鉄道エンジニアであったイザムバード・キングダム・ブルネル(1806-1859)が登場し、イギリスの産業革命前後からの発展の様子を、シェイクスピアの俳優として知られるケネス・ブラナーが、山高帽と黒のコートというブルネルの衣装をまとい、堂々20分のパフォーマンスが行われました。

ブラナーは、ブルネルが愛用していた客馬車(ブリツカ)でスタジアムに乗り付け、ケルト人の聖地とされる高さ145mのグラストンベリー・トーに参加国の国旗を立て、シェイクスピアの戯曲『テンペスト』のキャリバンの言葉をブラナーが朗読して始まりました。そして、産業革命の成果として溶鉱炉から

流れ出る鉄を鍛造し、五輪の輪の一つを作り上げるまでを、ブルネルに扮したブラナーが指揮し、同じく山高帽と黒のコートを身につけた多数のブルネル軍団が見守り、協力するというパフォーマンスでした。さて、上の開会式の様子は、ご覧になりましたでしょうか?なぜブルネルがオリンピックの開会式に登場したのでしょうか?なぜ、シェイクスピアが?なぜ、テンペストが?

この講演会では、そうした疑問に、ブルネルの研究者・佐藤建吉(千葉大学)とシェイクスピアの演劇研究者の篠崎実(千葉大学)、そしてブルネル大学のタディアス・ストラスキーの3名が、わかりやすく解説致します。

特別講演会 12-152

ブルネルとシェイクスピアの「驚きの島々」
—ロンドンオリンピックの開会式での演出を読み解く—

主催:日本機械学会 (企画:技術と社会部門、ブルネル・スピリット研究会)
後援:日英協会・英国大使館・千葉大学

あなたは、ブルネルを知っていますか?
 オリンピックの開会式にブルネルが登場した意味は? シェイクスピアの「驚きの島々」とは?

◆今年2012年7月27日に行なわれたロンドン・オリンピックの開会式では、「The Isles of Wonder」(「驚きの島々」と題した、英皇の歴史を象徴的・幻想的に描いた特異なスケルトンが築かれた島々)。◆この式典には、偉大な英国人としてチャーチルに次ぐ人気を誇る、19世紀に活躍したエンジニアのイザムバード・キングダム・ブルネル(1806~1859)に扮した俳優が登場し(写真)、「怖がることは無い、島は神官でいっぱい」という、シェイクスピア劇『テンペスト』の一場を朗読しました。

◆この講演会では、千葉大学でブルネルの技術史を研究する佐藤建吉とシェイクスピア演劇を研究する篠崎実が、英皇のブルネル大学からのゲストも迎え、ブルネルとシェイクスピアが取り上げられたこのスケルトンを読み解きます。◆ブルネルは53年の短い生涯に、未来を先取りした多くの技術開発を挑戦的に行いました(写真参照)。現代社会は、多くの課題を抱えています。ブルネルの挑戦心を覚えることは、その解決のための勇気を、私たちに、与えてくれることでしょう。

BBC GREAT BRITONS

「偉大な英国人」を大紹介!

Isambard Kingdom Brunel (1806-1859)

“Darwin told us where we came from, but it was Brunel who took us where we wanted to go.”

Keneth Branagh who played the role of Brunel

道をつなぐ、輪を交差する。安全に高いコミュニケーションを現実化する独自の構想技術。

より安全、より深く、安全で移動の自由をみつけた先見の眼識、運行技術。

冒険を先行へと変えた。安全な世界旅行を現実にする大型汽船と革新の技術。

ブルネルのチャレンジスピリットが、いま日本に夢と活力を与える。

on/from-to Fri. 26. Oct 2012/18:30-20:30
 at 日比谷図書文化館/大ホール

○ オープニング/18:30~18:40
 Kevin Knappett (英国大使館/科学技術員)

○ ブルネルってどんな人/18:40~19:10
 佐藤建吉 (ブルネル・スピリット研究会/千葉大学准教授)

○ シェイクスピアとの関わり/19:10~19:30
 篠崎実 (英文学者/千葉大学教授)

○ ゲストスピーチ/19:30~19:40
 Tadeusz Stolarski (機械工学部/ブルネル大学名誉教授)

○ トークセッション/19:40~20:10
 佐藤建吉 vs 篠崎実 vs Tadeusz Stolarski

○ ディスカッション/20:10~20:25 (全員)

○ クロージング/20:25~20:30 (ゲスト)

お問い合わせ
 日本機械学会
 E-mail: brunel@scmr.or.jp
 TEL: 043-290-3215
 FAX: 043-290-3215
<http://www.jsme.or.jp/ever/evnt.php>

参加費
 日本機械学会
 会員: 1000円
 学生員: 無料
 一般: 1500円
 学生: 500円
 当日、在席の受付でお支払い下さい。

【編集後記】 ##### (文責: 洗楓座事務局)

第3号を発売できました。本号では、地域活性学会の報告、三陸鉄道の紹介、夕刊フジ掲載の話題、それにブルネルの登場したロンドンオリンピックと多岐になりました。現時の尖閣列島や竹島の領有権にまつわる対立は、関係国だけでなく国際的な問題であり、未来に影を落としています。それに引き換え、大学生、高校生の「鐵の道」のラベル作品は、地域の未来への確かな証しであり、メッセージと言えるでしょう (mm)。